

まほうの言葉

千葉県 習志野台第一小学校

4年 有田 咲生

「だいじょうぶですか。」

わたしのパパが、声をかけました。わたしが小学校へ行くとき、パパはわたしについてきてくれていました。おしボタンがある交差点をすぎた道路をかこむように、木があるところを歩いていたときのことです。

うしろでとても大きな音がしました。パパはすぐに後ろをふりかえりました。とてもかっこいい自転車に乗ったお兄さんが、道路でころんでいたそうにしていました。後ろにはたくさんの方がいましたが、だれも近くによっていませんでした。

私とパパは、お兄さんからは少しはなれていましたが、パパは走ってお兄さんの近くに行き、「だいじょうぶですか。」と声をかけ、自転車をおこしてあげていました。お兄さんのまわりには、パパよりも近くにいた人がいましたが、パパは走ってお兄さんの近くにいました。

私はずかしくて、こわくて、いけませんでした。パパは、やさしくて、すごいなと思いました。パパはかっこいいと思いました。

私はそんなパパを見て、私もはずかしいとは思わずに「だいじょうぶですか。」と声をかけようと思いました。

私は「元気タイム」の時間に、校庭で鬼ごっこをしているとき、低学年の子がころんでいたそうにしているのを見ると、「だいじょうぶ。」と声をかけるようにしています。近くにいてあげて、だいじょうぶかな、としんぱいします。けがをしていたら、ほけん室につれていってあげることもあります。

私がころんだときやこまっているときに、友達が「だいじょうぶ。」と声をかけてくれると、いたかったり、悲しい気持ちが小さくなるような気がします。

「だいじょうぶ。」と声をかけてくれることで、いっしょにいてくれる、一人ではないと思うことができます。

「だいじょうぶ。」と声をかけることに、はずかしい気持ちや、声をかけていいのかなと思うこともあります。でも、私が悲しいときに、声をかけてくれるとうれしいです。

私は、これからも「だいじょうぶ。」と声をかけ、近くにいてあげたいと思います。

「だいじょうぶ。」と声をかけることは、悲しい気持ちを小さくしてくれる「まほうの言葉」だと私は思いました。